

## 課題解決型高度医療人材養成プログラム 選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント

〔 〔取組1〕 医師・歯科医師を対象とした事業  
(2) 特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成  
テーマ② 慢性の痛みに関する領域 〕 〕

|   |                     | 整理番号 | 5 |
|---|---------------------|------|---|
| 申請担当大学名<br>(連携大学名)  | 名古屋市立大学             |      |   |
| 事業名   | 慢性疼痛患者の生きる力を支える人材育成 |      |   |
| 事業責任者   | 医学研究科 教授 明智 龍男      |      |   |
| <b>事業の概要</b>  |                     |      |   |
| <p>慢性疼痛を深く理解し、苦悩する患者を援助することのできる多職種医療人を養成するために、本事業では、以下の6つの人材養成プログラム・コースを構築する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域医療施設での早期学習コース（医学部、薬学部、看護学部1年生によるグループ学習）</li> <li>2. 慢性疼痛の生物学的メカニズムを理解する基礎医学コース（医2、3年生）</li> <li>3. 精神心理的要因を含めた学際的理解をするベーシックコース（医、薬4年生、看2年生）</li> <li>4. 多職種による統合的治療の基礎を習得するアドバンスコース（医、薬5年生）</li> <li>5. 多職種医療スタッフ養成コース（医師、心理士、看護師、薬剤師、理学療法士）</li> <li>6. 精神心理的な介入を提供できるエキスパート養成コース（医師、心理士、専門看護師）</li> </ol> |                     |      |   |
| <b>推進委員会からの主なコメント</b> ○：優れた点等、●：充実を要する点等  |                     |      |   |
| <p>○精神心理アプローチに重点をおいた研究デザインであり、特徴的である。</p> <p>○学部教育において、医学・看護学・薬学が含まれているほか、認知行動療法のエキスパート養成コースは新規性があり、期待できる。</p> <p>○多職種連携による疼痛管理のチームアプローチなど実践的な教育体系を構築していく点が評価できる。</p> <p>○慢性疼痛管理チームを育成するための多職種社会人教育を組み入れている点が評価できる。</p> <p>○地域医療施設での体験型学習を取り入れている点は評価できる。</p> <p>●薬学部・看護学部に対する教育がe-ラーニングのみであり、学習方略について検討が望まれる。</p> <p>●補助期間終了後も本事業を確実に継続するための計画を具体的に検討する必要がある。</p> <p>●他大学等の参考となるよう本事業に係る取組や成果等を積極的に情報発信するなど、事業の普及・展開に努める必要がある。</p>       |                     |      |   |